みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　川畑信子

安保阻止・三池支援
ホッパー横で婦人大集会

福岡県婦人大集会は十九日、三川鉱ホッパー横広場で二千五百名が集つて「安保阻止・三池を守る」ための大集会をひらいた。ピケ隊の激励の中でひらかれた大会は、こんどますます三池をつつむ態勢をつよめ、安保阻止に向つて総力をあげて立上ることをきめ、大会ご裁判所、警察署、鉱業所に激しい抗議デモをくりひろげた。

主導権は主婦に

「安保阻止・三池を守る福岡県婦人集会」は、闘う現地三池の三川鉱ホッパー横広場で五月十九日午後一時三十分から約二千五百名が参加してひらかれた。

「三池を守ろう」の声が全国各地に「三池を守る会」をつくらせているとき、福炭婦協・県総評・民主婦人諸団体の主催によつてひらかれたのである。

この日参加したのは福岡県下のあらゆる地区からの代表であり、高教組、全電通、地銀連、全司法、自労、自治労、全損保、西鉄、部落解放、社会党、共産党、全逓、福教組、九大、全医労、専売、日百連、建労、新聞労連、国鉄、全逓などの婦人部と、国鉄むつび会、日通家族会、母親連絡会、西鉄家族会、炭婦協、安保校区共闘、子供を守る会などの主婦会や民主団体など約二十八団体が結集した。

組合員・オルグがホッパーのピケを固めている会場に入る婦人たちは、手に手に「会社の番犬警察は嫌い嫌い嫌い」「正義の味方全国のオルグ」「安保粉砕」などのプラカードをもち、組合員・オルグの拍手を浴びて、つぎつぎと広場を埋めていつた。

和やかにオルグと交歓

開会まで、うたごえ行動隊の人たちが、闘いのなかでつくられた「主婦の子守唄」の歌唱指導に一役買つて、うたごえがホッパーにこだましていつた。

ぞくぞくと参加する主婦たちのなかには、おなじヤマからピケオルグに来ている組合員の姿を見つけ「○○さん、伝言たのまれてきたよ。今日はとまるけん後で話す」とオルグと主婦たちの交歓情景があちこちで披露され、なごやかな気分が会場を覆い、闘いが全国の労働者によつて闘われていることを、目のあたりに見せつけられ、会場をつつむ空気も、力強い空気に張ち切れそうである。

〃幸せのうた〃大合唱で意義ある大会の幕がひらかれた。

議長団に選ばれた炭婦協会長の只隈さんは「三池闘争の勝敗のカギは、平和か戦争かの岐れ道になるし、民主主義かファッシズムになつています。それを三池の組合員と主婦が知つているから強力な闘いに立上つているのです。今日の大会を機会に、私たちは守勢から攻勢に立上ることを誓い、この婦人の力を三井の独占資本に見せてやりましょう」と力強く挨拶をされた。

明るい三池の主婦

婦人大集会を伝えきき、多忙のなかで時間を割いて会場にかけつけた社会党婦人議員藤原道子さんも挨拶に立ち「私が三池に来ましたのは今日で四回目です。今の状態は戦争直前のことと余りによく似ています。この重大な時期に婦人がどちらの側につくかがその勝敗を決定すると思います。新らしい生命を生み育てる婦人は、今日まで平和を念願してきました。もしここで安保批准を許すならダラダラと民主勢力は崩れ、そして一番邪魔な組合の弾圧も狙われていることを知らねばなりません。三池の皆さんたちは、自分の身を守るだけでなく、全日本の労働者の先頭に立つて犠牲的に闘つておられます。そして、主婦会への官憲の弾圧にも負けず、明るく闘つておられます。これを見て私は労働者の勝利が必ずくると確信します。がんばつてください」と激しい口調で政府・資本家を攻撃し、闘いを激励された。

このあと、共産党大瀬正気、総評えび谷、総評婦人部代表、北実行委員長の各氏からそれぞれ挨拶がおくられた。

ホッパー下の貨車の横に急ごしらえにつくられた壇上には、大集会参加者が持参した慰問袋が高々と掲げられ、参加者を囲み、組合員・オルグが熱心に傍聴のためつめかけた。

抗議デモを展開

嘉崎社会党県連書記長が立つて安保闘争の経過報告ののち、南場主婦会長は「今日の集りをみて万感胸に迫るものがあります。敵の弾圧に涙を流したことはありませんが、この情景に接し涙があふれて来ました。ご期待に沿うようがんばることを誓い、一同に変つておられます。」と涙を流して感謝の言葉を送ると、会場のあちこちで、そつとハンカチをあて目頭をふく姿もみられ、闘いへの決意がひしひしと胸を打ち、闘魂をふるい立たせた。

宮川組合長も現在までの三池の闘争経過を報告し「婦人の力で世論をまき起していただきたい」と訴え、闘う決意を述べた。警察の気狂いじみた弾圧で逮捕された八名の主婦たちが壇上にならび挨拶すれば、会場は万雷の拍手がしばし鳴り止まなかつた。「安保阻止・三池支援」の決議文を満場一致で決定し、ピケ隊と一緒にがんばろうを三唱して大会を終つた。

大会と三池主婦会を先頭にデモ行進し、市民の激励をうけて、裁判所・警察署・鉱業所前で激しい抗議デモを展開、裁判所・警察署では抗議団をつくつて不当弾圧と警察官の暴行について抗議し、三池からの警官の即時撤退を要求した。

私は権力を憎む
警察・市民に訴える主婦の手紙

〃近ごろの警官の行動は目にあまるものがありますし、一般の人たちは組合員・主婦の逮捕を重罪人のように思つて三鉱労組は暴力を平気でやるようなことをいつているのがききます〃と前置きして一主婦から、つぎの手紙が届けられました。市民・警官にたいする心の訴えです。

市民の皆さん、警官のみなさんに訴えます。

私たちは主人の首を守り、生活権利を守るために立上つています日夜を分たず、ピケ隊に参加している主人たちの闘争を、座して見ているわけには出来ません。

市中の奥さまたちは、私たちの行動にたいして「あれが女の行動か」と笑つておられることも耳にしますが、私たちにとつては死活問題です。労働者は団結がいかに資本家と対等の話は出来ません。

ところが、闘争の重大段階にきて、一部の人たちが仲間を裏切り仲間の首を会社に売り渡すために汚れた金をばらまいて、会社と合作の第二組合をつくつたので、闘いは苦境に立ちました。

その行為にたいして深い憤りがわくとともに、一人ひとりの闘う決意は百倍にも強化され、今では全国の働く仲間の支援のもとに、勝利の道を一歩一歩前進しております。

ところが資本家は、その力におそれ、現在私たちにおそいかかつている圧力は、権力です。その力で私たちに恐怖心をいだかせ、「父ちゃん、あまり前に出ると、逮捕されるから」「お前もあまり出しやばんな、連行されるぞ」この気持をもたせたら、鉄の団結もくずれ去るだろうと、久保様刺殺事件いらい、治安維持の名目で、全九州から五千名が動員されたお巡りさんでした。

しかし、社宅街にきておられるお巡りさんは、みんな人情味ある方ばかりで「一日も早く平和に解決して、皆さんが幸福になられ、私たちも一日も早く妻子のまつ国もとに帰りたい」と、私たちの気持と寸分もちがわない父であり、兄です。

ヨゴレ・坑内モグラ

なぜこのような警官が、主婦を逮捕するに罪もない子供をつき飛ばし、泣き叫ぶ子供をふり切り連行して行くのか。久保さまの刺し殺されるを目前にみて、なんらの処置をしない警官。

田舎からきている一警官が、親せきの組合員の家にきて「三川坑ホッパーでは、白帽（眞警機動隊）に殺しても良いからやれ」と指示が出ているから用心したが良いと注意されたことも情報に出ていました。ほんとうに身の毛のよだつような恐ろしい指示です。

先日映画で、警棒で打たれ、うずくまる丸ごしの組合員に、なおも警棒のあらしを降らせる場面をみて、思わず目をそむけました。

デモ帰りの私どもに出動車の警官が指さしてあざけり笑いながら「このヨゴレ」「坑内モグラ」と公僕の警官の口からバ声をあびせかけられ、私たちも思わず「税金ドロボウ」と口ぐちにいい返しました。

私たちも一度もこのような言葉を口にしたことはありませんでした。近ごろの警官の行動をこの目で見、きき、読むごとに、はつきりとその正体をみきわめてきました。

主人たちの毎月の給料から天引される税金の一部は、警棒ともなるでしょう。その警棒で私たちが苦しめられていると思うと、税金ドロボウといいたくなります。

私たちの一人ひとりの力は、ふけば飛ぶように弱い。しかし団結したら偉大な力を持つておりますその団結力だけが私たち働く者の武器です。それをくずそうとしているのが国家権力ということを一人ひとりの組合員が、主婦が自覚しました。

一生この憎しみは消えない

私達もあなたたちの勤務に対して感謝の気持は持つておりますが警棒をふり上げ、足でけとばすことを指示している者に対しては、一生を通じこのにくしみは消えることはないでしょう。

私達はただ主人の首を守り、普通りの平和の家庭に一日も早く帰すためみんなが力をあわせ一・二〇〇名の首を守つて石にかじりついても闘う決意でおります。

市民の皆様、警官の皆様、私達の気持を少しでもくみとりご協力下さるようお願い申上げます。

拒否者の妻より
市民の皆様、警官の皆様へ

炎天
（会社の生産再開を阻止のため鉱山をピケして）

自由と人権を奪い
平和をふみにじり
なほ狂い猛る犬ども
断て！
資本家共の首を
殺人鬼どもの首を
一片の石炭にも値しない奴ら共の首を
グロテスクな黒く武装した者共を
働く仲間達のピケは鉱山を圧した
赤く
真赤な労働者の怒りの炎が中天を焦し
拡がり
夜も昼もなく燃え上る
首断機械がうなり出し
労働者の血しぶきが、ベルトコンベヤーに流れ出すとき
正義の炎は一層燃へ上る
たて奴ら！
暴力に餓へて幾百万の血を流し
殺人鬼は人の命を奪い
うらぎり餓へて人の心を奪い
金に餓へて盗人を働き
デッチ上げに餓へて人の良心を奪う
われら労働者の誇りをみよ
今日も子供らは笑顔で学校へ行つた
「お父さん、会社に負けないでしつかり頑張つて」と
全国の学生から
働く仲間達から送られた
エンピツ・帳面・消ゴム・ふで入れ・ランドセルを持つて
シャツ・ズボン・靴を詰込み
一万円生活が割り出す弁当を持つて行つた
われらは決してくじけない
ひるまない
働く仲間達の怒りのスクラムが鉱山を圧する
微笑えみ
よどみ
歌声が
和やかに流れる

一九六〇年五月十五日　本所　河野　哲人

炭労の婦人たち
桑野　慶子

炭婦協の婦人たちはよく笑う。明るくそして和やかに笑い合う。

「いつも雪散のまなきやならんのにこの頭はよう笑うけんのまんで良かごとなりました」とまたも笑う。「どうして皆さんこんなに朗らかなのかしら？」と言えば「そりやあ戦時中ですもん、しつかり笑つとかにや」とまるで社宅の家族を慰問に来たはずの私たちは逆に激励を受けに来た恰好である。ホッパーの争奪戦や、宮の浦坑の座り込みを目撃した直後の私たちは〃ピケ隊の家族が如何に緊迫した緊張を表情だろうか〃を抱いていただけに、社宅の婦人たちの明朗な安らかなようすを目前にして一種異様の感圧をすら感じた。

何がどうして婦人たちをこれ程強くしたのだろうか？

その日は月のない暗い夜だつた社宅に分宿させてもらうため、数組の人に案内されたのは、かれこれ午後七時半だつたろうか？炊き出しや伝令などで疲れた主婦たちが一日の仕事の後片づけに取りかかる頃なのに闘争本部からマイクによつて急速に連絡がとられ、座談会の場を設けられることになつた。りりしい鉱業姿の主婦たちが続々と集まられ、初対面の挨拶を交わし合つていると、突如夜気を破つてワッショイワッショイのかけ声と共に一番方のピケ隊が帰つてきた。そこの家の主婦たちは言い交わすように会釈して「又すぐ来ますから」と帰宅の主人をねぎらいに行く。「何が一番御不自由ですか？」と早速問いかければ「御飯は沢山食べますし、まあ買物つくることば妥結まで我慢しとりますたい」とのこと。「子供に留守番ばかりさせますが、この争議も子供にも人なみの生活をさせるためにしとりますけん。子供もそこはわかつて良くこらえます」と必勝を信じてうたがわぬ面持ちである。

「○○新聞は写真を大写しするばつてん、報道はつまりまつせんばい△△△も××もあれは間違いだらけ◎◎新聞だけが一番素直かこたるマスコミというがあんなのを信用せんで下さい。就労五〇三人げな何が掘り切るもんですか？必ず下の方に〃三〃ばつけて書かつしやるけん。そこが曲者たい」と報道陣の誤報に対しての批判である。

「合羽屋さんにヘルメット屋さんは景気の良かげなよ。でも私は十五日の五千円支給は受けておきながら午後はもう第二に走つたりする裏切りはしたくない。下駄の三倍すり減るごと駆け廻るだけ身体も三倍程強くなつた」と健康そうに笑う婦人たちの笑い方も以前より三倍程強まつたらしい。

炭都の婦人は笑顔が若やいでそしてきれいだつた。

（敎組久留米支部「敎育新聞」より）